Stealthwatch® システム

ハードウェア設置ガイド

(Stealthwatch システム バージョン 6.9.1 用)

目次

はじめに 7

概要 7

対象読者 7

このマニュアルの使い方 7

略語 8

事前設定に関する考慮事項 12

概要 12

CIMC デフォルト パスワード 12

StealthWatch のコンポーネント 12

Stealthwatch 管理コンソール 12

フロー コレクタ 13

フロー センサー 13

UDP Director 14

配置の考慮事項 14

SMC の配置 15

Stealthwatch Flow Collector の配置 15

Stealthwatch Flow Sensor の配置 15

その他の Stealthwatch 製品の配置 16

通信用ファイアウォールの設定 16

通信ポート 16

ネットワークへの Flow Sensor の統合 19

TAP 20

Electrical TAP の使用 20

Optical TAP の使用 21

ファイアウォールの外での TAP の使用 21

ファイアウォール内部に Flow Sensor を配置する 22

SPAN ポート 23

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved.

設置 **26**
概要 26
アプライアンスのマウント 26
アプライアンスに付属するハードウェア 26
追加で必要なハードウェア 26
デフォルト ユーザ パスワードの変更 29
アプライアンスへの接続 29
キーボードとモニタを使用した接続 29
ラップトップを使用した接続 30
デフォルト IP アドレスの変更 31
sysadmin ユーザ パスワードの変更 34
ルート ユーザ パスワードの変更 36
ネットワークへのアプライアンスの接続 39
サーバのタイプ 40
SMC 1000 および 2000 と Flow Collector 1000 および 2000 40
SMC 1010、Flow Collector 1010 および 4010、Flow Sensor 2010、3010、4010、および UDP Director 2010 40
SMC 2010 および Flow Collector 2010 41
SMC 2200 41
Flow Collector 4000 42
Flow Collector 4200 42
Flow Collector 5000 エンジン 43
Flow Collector 5000 データベース 43
Flow Collector 5020 および 5200 データベース 44
Flow Collector 5020 および 5200 データベース 45
Flow Sensor 1000 と UDP Director(FlowReplicator とも呼ばれる) 1000 45
Flow Sensor 1010 および UDP Director 1010 46
Flow Sensor 1200 46

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved.

Flow Sensor 2200 47
Flow Sensor 3200 47
Flow Sensor 4000 48
Flow Sensor 4200 48
UDP Director 2000、Flow Sensor 2000 および3000 49
UDP Director 2200 49
ネットワークへの接続 50

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved.

はじめに

概要

このガイドでは、Stealthwatch システムのハードウェア製品のインストール方法について説明します。また、Stealthwatch システムのコンポーネント、Flow Sensor の統合を含む、システム内での各コンポーネントの配置方法について説明します。このガイドでは、Stealthwatch システム ハードウェアの取り付けと設置についても説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- **対象読者**
- **このマニュアルの使い方**
- **略語**
- **はじめに**

対象読者

このガイドは、Stealthwatch システム ハードウェアの設置を担当する方を対象にしています。ネットワーク機器(Flow Sensor、Flow Collector、UDP Director、および Stealthwatch Management Console) の設置に関する一般的な知識があることを前提にしています。

Stealthwatch システム製品の設定については、*Stealthwatch システム ハードウェア コンフィギュレーション ガイド* [英語] を参照してください。

このマニュアルの使い方

「はじめに」の他に、このガイドは次の章に分かれています。

章	説明
2: **事前設定に関する考慮事項**	Stealthwatch のコンポーネント、コンポーネントの配置、通信用ファイアウォールの設定について説明します。
3: **設置**	Stealthwatch ハードウェアの取り付けと設置について説明します。

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

略語

このガイドでは、次の略語が使用されます。

省略形	説明
DMZ	非武装地帯(境界ネットワーク)
DNS	ドメイン ネーム サーバ/サービス
FC	Flow Collector
FS	Flow Sensor
FTP	File Transfer Protocol
HTTPS	Hypertext Transfer Protocol(Secure)
ISE	Identity Services Engine
Mbps	Megabits per second(メガビット/秒)
NAT	ネットワーク アドレス変換
NIC	ネットワーク インターフェイス カード
NTP	ネットワーク タイム プロトコル
PCIe	Peripheral Component Interconnect Express(ペリフェラル コンポーネント インターコネクト エクスプレス)
SMC	StealthWatch 管理コンソール
SNMP	Simple Network Management Protocol(簡易ネットワーク管理プロトコル)
SPAN	スイッチド ポート アナライザ

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

省略形	説明
SSH	セキュア シェル
TAP	テスト アクセス ポート
UPS	無停電電源
URL	Universal Resource Locator(ユニバーサル リソース ロケータ)
USB	Universal Serial Bus
VLAN	仮想ローカル エリア ネットワーク

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

事前設定に関する考慮事項

概要

この章では、Stealthwatch アプライアンスを設置および設定する前に考慮する必要のある事項について説明します。また、Stealthwatch システム製品を配置する場所と、ネットワークへの統合方法について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- **CIMC デフォルト パスワード**
- **StealthWatch のコンポーネント**
- **配置の考慮事項**
- **通信用ファイアウォールの設定**
- **ネットワークへの Flow Sensor の統合**

CIMC デフォルト パスワード

Cisco Integrated Management Controller(CIMC) を使用すると、サーバの構成と仮想サーバコンソールにアクセスし、ハードウェアの健全性をモニタすることができます。デフォルト パスワード(Admin123) を使用して、CIMC にログインします。

ログインしたら、ネットワークのセキュリティを保護するためにデフォルトのパスワードを変更します。

StealthWatch のコンポーネント

Stealthwatch システムは、ネットワークのパフォーマンスとセキュリティを改善するためにネットワーク情報を収集、分析、提示するいくつかのハードウェア コンポーネントで構成されています。ここでは、主要な Stealthwatch コンポーネントについて説明します。

Stealthwatch 管理コンソール

Stealthwatch Management Console(SMC) は、Stealthwatch のコントロール センターです。システム内のさまざまなすべてのコンポーネントを管理、調整、設定、編成します。SMC クライアント ソフトウェアにより、Web ブラウザへのアクセス権を持つローカル コンピュータから、SMC のユーザ フレンドリーなグラフィカル ユーザ インターフェイス(GUI) にアクセスすることができます。SMC を使用して、企業全体の重要なセグメントに関するリアルタイムのセキュリティおよびネットワーク情報に簡単にアクセスできます。

SMC は Java ベースの独立したプラットフォームを採用しており、次のことが可能です。

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

- 最大 25 の StealthWatch フローコレクタの管理、設定、およびレポートの一元化
- トラフィックの視覚化のためのグラフィカル チャート
- トラブルシューティングのためのドリルダウンの分析
- 統合型のカスタマイズ可能なレポート
- トレンド分析
- パフォーマンス モニタリング
- セキュリティ違反の即時通知

フローコレクタ

Stealthwatch Flow Collector for NetFlow は、NetFlow、cFlow、J-Flow、Packeteer 2、NetStream、IPFIX データを収集することで、コスト効率の高い、動作に基づくネットワーク保護を提供します。

Flow Collector は高速ネットワークの動作データをさまざまなネットワークやネットワーク セグメントから集約することで、エンドツーエンドの保護を提供し、地理的に分散したネットワークのパフォーマンスを改善します。

> データを受信すると、Flow Collector はパケット暗号化やフラグメンテーションとは無関係に、既知または未知の攻撃、内部での不正使用、ネットワーク デバイス設定の誤りを特定します。Stealthwatch システムが動作を特定すると、その種類の動作に対して設定済みのアクション(存在する場合)を実行できます。

フローセンサー

Stealthwatch Flow Sensor は、スイッチ ポート アナライザ(SPAN)、ミラー ポート、イーサネット テスト アクセス ポート(TAP)にプラグインできる、従来のパケット キャプチャ アプライアンスや IDS と似た機能のネットワーク アプライアンスです。フロー センサーは、次のネットワーク領域の可視性を強化します。

- NetFlow を使用できない領域。
- NetFlow は使用可能であるものの、パフォーマンス メトリックとパケット データに対する優れた可視性が必要な領域。

Flow Sensor を NetFlow v9 対応のフローコレクタに誘導することで、価値のある詳細なトラフィック統計情報を NetFlow から得ることができます。また、Flow Sensor を Stealthwatch Flow Collector for NetFlow と組み合わせると、パフォーマンス指標や動作指標に関する深い洞察を得ることができます。これらのフロー パフォーマンス指標から、ネットワークまたはサーバ側アプリケーションに由来するラウンドトリップ遅延についての洞察が得られます。

フロー センサーはパケット レベルの可視性を備えているので、TCP セッションのラウンドトリップ時間(RTT)、サーバ応答時間(SRT)、パケット損失を計算できます。これには、Stealthwatch Flow Collector for NetFlow に送られる NetFlow レコード内のこのような追加的フィールドがすべて含まれます。

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

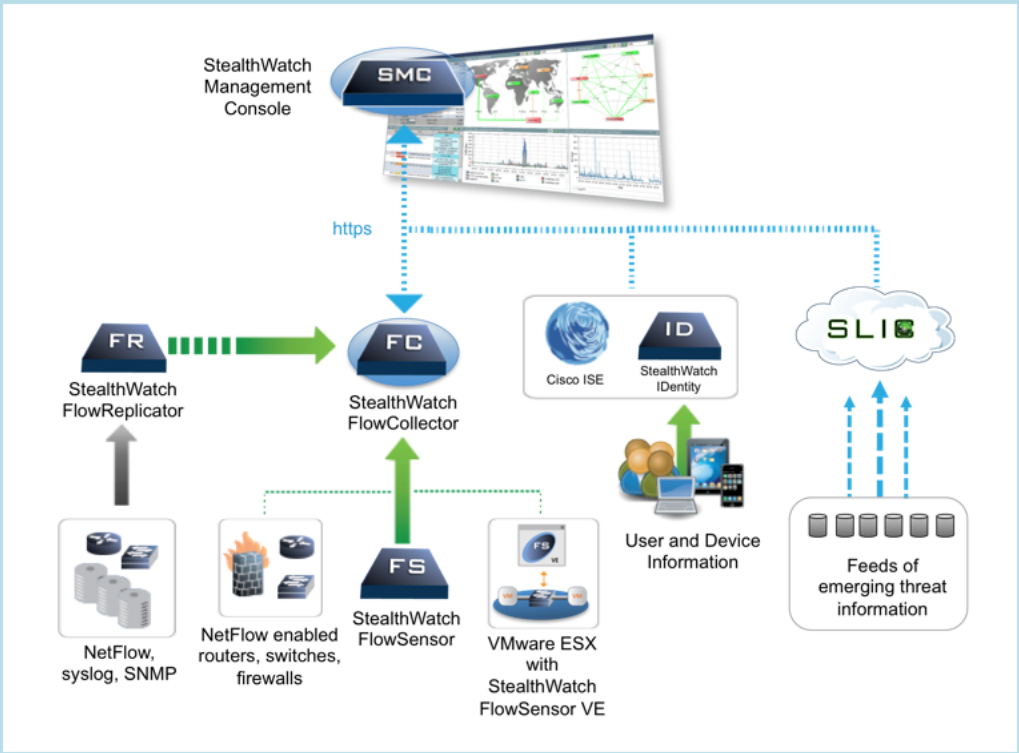
UDP Director

Stealthwatch UDP Director は、高速かつ高パフォーマンスのUDP パケット レプリケータです。UDP Director は、NetFlow、sFlow、syslog、またはSimple Network Management Protocol (SNMP) のトラップをさまざまなコレクタに再配分するうえで非常に役立ちます。コネクションレス型 UDP アプリケーションからデータを受信し、それを複数の宛先に再伝送し、必要に応じてデータを複製できます。

UDP Director の高可用性(HA) 構成(フェールオーバー) を使用する場合は、クロス ケーブルで 2 台の UDP Director アプライアンスを接続する必要があります。具体的な手順については、「**ネットワークへの接続**」を参照してください。

配置の考慮事項

以下の図に示すように、Stealthwatch システム製品は、内部ネットワーク、ネットワーク周辺、またはDMZ内のいずれであっても、ネットワーク全体で重要なネットワーク セグメントの最適なカバレッジが提供されるように戦略的に展開できます。



© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

SMC の配置

管理デバイスである Stealthwatch Management Console(SMC) は、データを送信してくるすべてのデバイスにアクセス可能なネットワーク上の場所に設置する必要があります。

SMC のフェールオーバー ペアがある場合は、プライマリ SMC およびセカンダリ SMC を物理的に異なる場所に設置することを推奨します。この戦略により、ディザスタ リカバリ作業(必要な場合) が強化されます。

Stealthwatch Flow Collector の配置

収集およびモニタリング デバイスである Stealthwatch Flow Collector for NetFlow アプライアンスおよび Stealthwatch Flow Collector for sFlow アプライアンスは、Flow Collector にデータを送信する NetFlow または sFlow デバイス、および管理インターフェイスへのアクセスに使用する予定のすべてのデバイスにアクセス可能なネットワーク上の場所に設置する必要があります。

ファイアウォールの外に Flow Collector を配置する場合は、[Accept traffic from any exporter] の設定をオフにすることを推奨します。

Stealthwatch Flow Sensor の配置

IP アクティビティの監視と記録のために、パッシブ モニタリング デバイスとして Stealthwatch Flow Sensor をネットワーク上の複数のポイントに配置できます。これにより、ネットワークの整合性が保護され、セキュリティ違反が検出されます。Flow Sensor には、中央またはリモートのいずれかの管理機能を実装する統合型 Web ベースの管理システムがあります。

次のように、企業ネットワーク上の重要セグメントに Flow Sensor アプライアンスを配置すると最も効果的です。

- ファイアウォールの内側。トラフィックをモニタして、ファイアウォール違反が発生したかどうかを確認できます。
- ファイアウォールの外側。トラフィック フローをモニタして、ファイアウォールにとって脅威となるものを分析できます。
- ネットワーク上の機密セグメント。不満を持つ従業員やルート アクセス権限を持つハッカーに対する保護を実現できます。
- 脆弱なネットワーク拡張部分であるリモート オフィス。
- ビジネス ネットワーク。プロトコルの使用を管理できます(たとえば、ハッカーが Telnet や FTP を実行して顧客の金融データを侵害しているかどうかを確認するには、トランザクション サービス サブネット上に配置します) 。

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

その他のStealthwatch 製品の配置

Stealthwatch UDP Director(別名 FlowReplicator) やStealthwatch Flow Sensor Virtual Edition(VE) を含むVM サーバなど、その他のStealthwatch 製品の配置に関する唯一の要件は、該当する他のStealthwatch 製品への妨げにならない通信パスがあることです。

通信用ファイアウォールの設定

アプライアンスが適切に通信できるようにするには、ファイアウォールまたはアクセス コントロール リストによって必要な接続がブロックされないようにネットワークを設定する必要があります。このセクションに示されている図と表を参照して、アプライアンスがネットワーク経由で通信できるようにネットワークを設定します。

通信ポート

Stealthwatch でポートがどのように使用されるかを次の表に示します。

送信元(クライアント)	宛先(サーバ)	ポート	プロトコル
管理者ユーザのPC	すべてのアプライアンス	TCP/443	HTTPS
すべてのアプライアンス	ネットワークの時刻源	UDP/123	NTP
Active Directory	SMC	TCP/389、UDP/389	LDAP
AnyConnect	エンドポイントコンセントレータ	UDP/2055	NetFlow
Cisco ISE	SMC	TCP/443	HTTPS
Cisco ISE	SMC	TCP/5222	XMPP
エンドポイント コンセントレータ	Flow Collector	UDP/2055	NetFlow
外部ログ ソース	SMC	UDP/514	SYSLOG

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

送信元(クライアント)	宛先(サーバ)	ポート	プロトコル
Flow Collector	SMC	TCP/443	HTTPS
SLIC	SMC	TCP/443 または プロキシされた接続	HTTPS
UDP Director	Flow Collector - sFlow	UDP/6343	sFlow
UDP Director	Flow Collector - NetFlow	UDP/2055*	NetFlow
UDP Director	サードパーティのイベント管理システム	UDP/514	SYSLOG
Flow Sensor	SMC	TCP/443	HTTPS
Flow Sensor	Flow Collector - NetFlow	UDP/2055	NetFlow
アイデンティティ	SMC	TCP/2393	SSL
NetFlow エクスポータ	Flow Collector - NetFlow	UDP/2055*	NetFlow
sFlow エクスポータ	Flow Collector - sFlow	UDP/6343*	sFlow
SMC	Cisco ISE	TCP/443	HTTPS
SMC	DNS	UDP/53	DNS
SMC	Flow Collector	TCP/443	HTTPS
SMC	Flow Sensor	TCP/443	HTTPS

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

送信元(クライアント)	宛先(サーバ)	ポート	プロトコル
SMC	アイデンティティ	TCP/2393	SSL
SMC	フロー エクスポータ	UDP/161	SNMP
SMC	エンドポイント コンセントレータ	UDP.2055	HTTPS
ユーザ PC	SMC	TCP/443	HTTPS

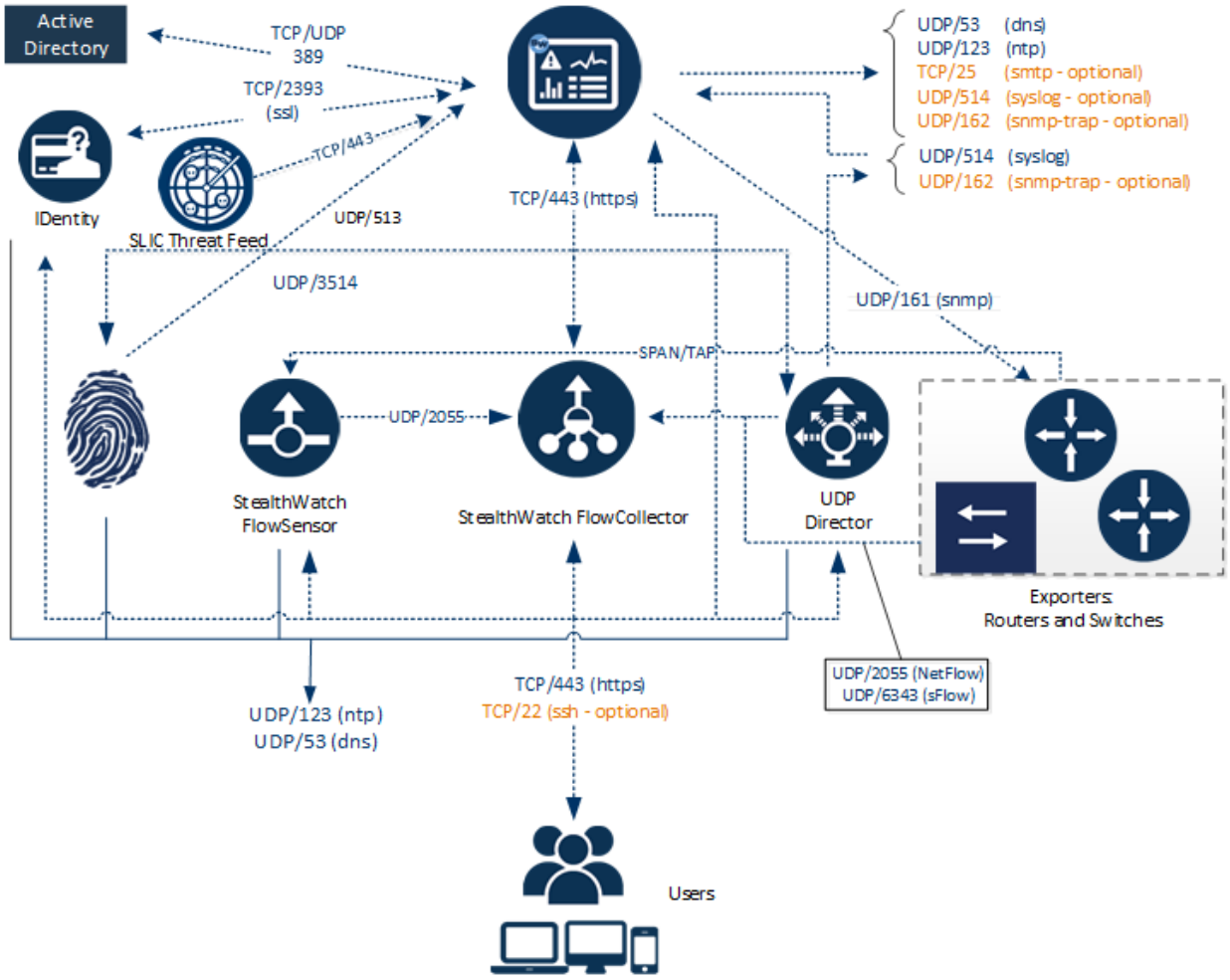
* これはデフォルト ポートですが、任意のUDP ポートをエクスポータで設定できます。

次の表に、ネットワーク要件によって決まる任意の設定を示します。

送信元(クライアント)	宛先(サーバ)	ポート	プロトコル
すべてのアプライアンス	ユーザ PC	TCP/22	SSH
SMC	サードパーティのイベント管理システム	UDP/162	SNMP - トラップ
SMC	サードパーティのイベント管理システム	UDP/514	SYSLOG
SMC	電子メール ゲートウェイ	TCP/25	SMTP
SMC	SLIC	TCP/443	SSL
ユーザ PC	すべてのアプライアンス	TCP/22	SSH

次の図は、Stealthwatch システムによって使用されるさまざまな接続を示しています。*オプション*としてマークされたポートは、ネットワーク要件に応じて使用できます。

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved



ネットワークへのFlow Sensorの統合

Stealthwatch Flow Sensorは、さまざまなネットワークトポロジ、テクノロジー、コンポーネントと統合できる十分な多様性を備えています。すべてのネットワーク設定をここで説明することはできませんが、モニタリングの要件に最適な設定を決定するうえで、記載されている例を参考にすることができます。

Flow Sensorをインストールする前に、ネットワークとそのモニタ方法についていくつかの事項を決定する必要があります。ネットワークのトポロジおよび組織固有のモニタリング要件を必ず分析してください。モニタ対象ネットワークとの間でネットワーク伝送を受信し、必要に応じて内部ネットワーク伝送も受信できるように、Flow Sensorを接続することをお勧めします。

以降のセクションでは、次のイーサネット ネットワーク デバイスを使用してネットワークにStealthwatch Flow Sensorアプライアンスを統合する方法について説明します。

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

- **TAP**
- **SPAN ポート**

TAP

テスト アクセス ポート(TAP) がネットワーク接続に合わせて配置されると、TAP は 1 つ以上の個別のポートで接続を繰り返します。たとえば、イーサネット ケーブルに合わせて配置された Ethernet TAP は、個別のポートでそれぞれの伝送方向を繰り返します。したがって、TAP を使用することは、Flow Sensor を使用するための最も信頼性の高い方法です。使用する TAP のタイプは、ネットワークに応じて異なります。

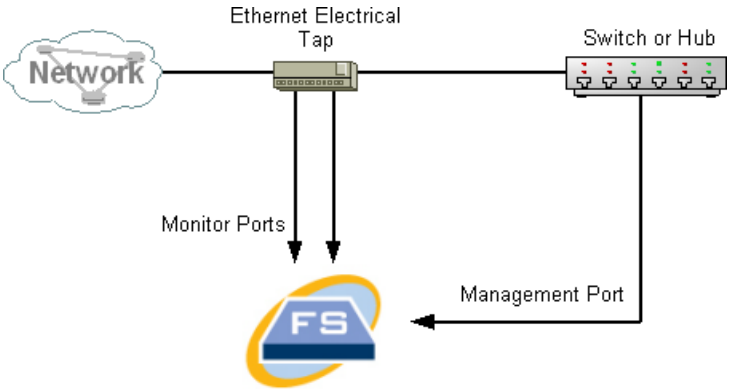
このセクションでは、次に示す TAP の使用法について説明します。

- **Electrical TAP の使用**
- **Optical TAP の使用**
- **ファイアウォールの外での TAP の使用**
- **ファイアウォール内部に Flow Sensor を配置する**

TAP を使用しているネットワークでは、着信と発信の両方のトラフィックをキャプチャする集約 TAP に Flow Sensor が接続されている場合にのみ、パフォーマンス モニタリング データをキャプチャできます。各ポートで 1 方向のトラフィックだけをキャプチャする単方向 TAP に Flow Sensor が接続されている場合、Flow Sensor はパフォーマンス モニタリング データをキャプチャしません。

Electrical TAP の使用

次の図は、Ethernet Electrical TAP に接続されている StealthWatch Flow Sensor を示しています。この構成を実現するには、図に示すように 2 つの TAP ポートを Flow Sensor モニタ ポート 1 と 2 に接続します。

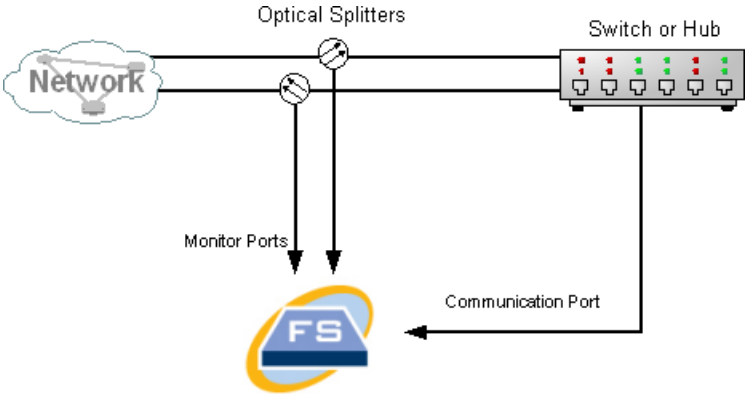


© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

Optical TAP の使用

光ファイバ ベースのシステムには 2 つのスプリッタが必要です。光ファイバ ケーブル スプリッタを各伝送方向に合わせて配置し、スプリッタを使用して 1 つの伝送方向の光信号を繰り返すことができます。

次の図は、光ファイバ ベースのネットワークに接続されている Flow Sensor を示しています。この構成を実現するには、図に示すように光スプリッタを Flow Sensor モニタ ポート 1 と 2 に接続します。



モニタ対象ネットワーク間の接続が光接続である場合、Stealthwatch Flow Sensor アプライアンスは 2 つの光スプリッタに接続されます。管理ポートは、モニタ対象ネットワークのスイッチ、または別のスイッチ/ハブに接続されます。

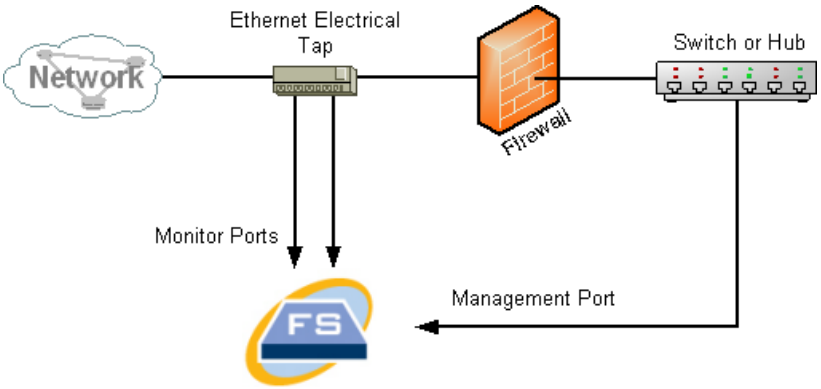
ファイアウォールの外での TAP の使用

Flow Sensor によってファイアウォールと他のネットワーク間のトラフィックをモニタするには、Stealthwatch 管理ポートをファイアウォールの外のスイッチまたはポートに接続します。

デバイスの障害が原因でネットワーク全体がダウンしないようにするため、この接続に TAP を使用することを強く推奨します。

次の図に、Ethernet Electrical TAP を使用したこの構成の例を示します。モニタ対象ネットワークのスイッチまたはハブに管理ポートを接続する必要があります。このセットアップは、ネットワークとの間のトラフィックをモニタするセットアップに似ています。

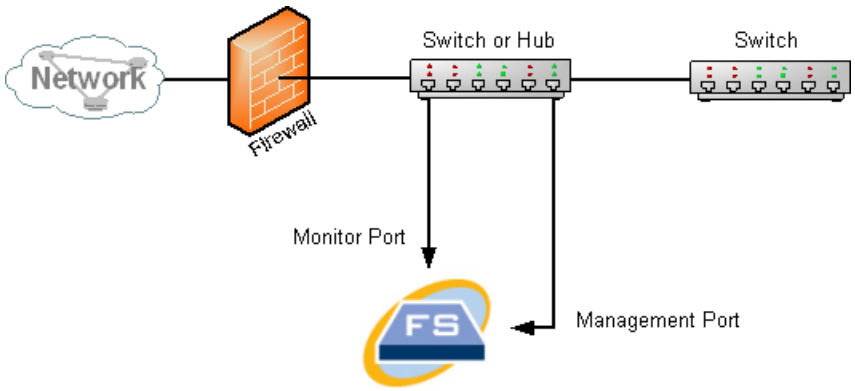
© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved



ファイアウォールでネットワーク アドレス変換(NAT) を実行している場合は、ファイアウォール上のアドレスだけを監視できます。

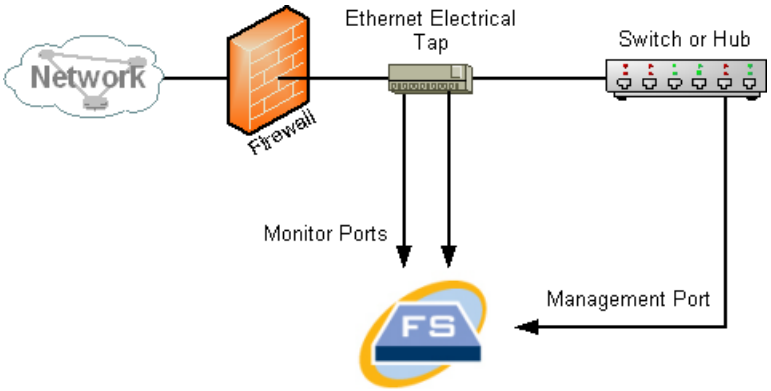
ファイアウォール内部にFlow Sensor を配置する

内部ネットワークとファイアウォール間のトラフィックをモニタするには、Flow Sensor がファイアウォールと内部ネットワーク間のすべてのトラフィックにアクセスできる必要があります。これを実現するには、メイン スイッチでファイアウォールへの接続をミラーリングするミラー ポートを設定します。次の図に示すように、Flow Sensor モニタ ポート 1 がミラー ポートに接続していることを確認してください。

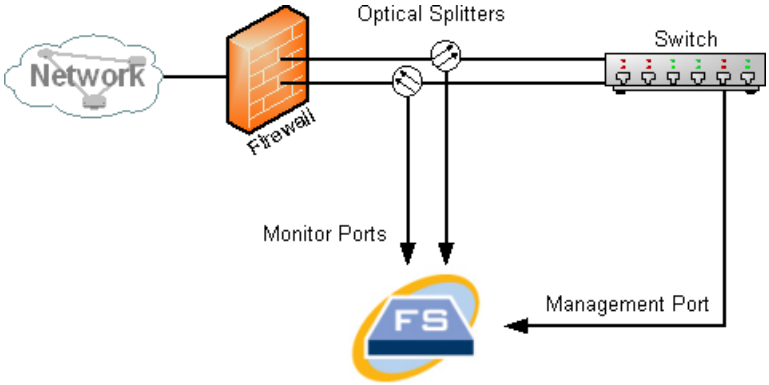


TAP を使用してファイアウォール内部のトラフィックをモニタするには、ファイアウォールとメイン スイッチまたはハブの間にTAP または光スプリッタを挿入します。TAP の構成を次に示します。

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved



光スプリッタの構成を次に示します。

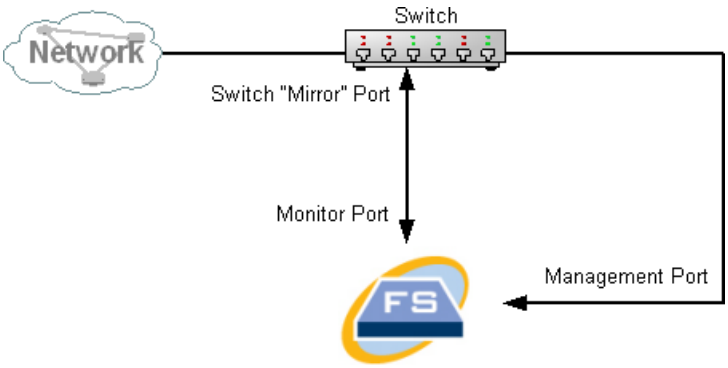


SPAN ポート

また、Flow Sensor をスイッチに接続することもできます。ただし、スイッチは各ポートのすべてのトラフィックを繰り返すわけではないので、Flow Sensor が正しく機能するには、1 つ以上のスイッチ ポートとの間で伝送されるパケットをスイッチで繰り返すことができる必要があります。このタイプのスイッチ ポートはミラー ポートまたは Switch Port Analyzer(SPAN) と呼ばれることがあります。

次の図は、管理ポート経由でネットワークを Stealthwatch Flow Sensor に接続することでこの構成を実現する方法を示しています。

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved



この構成では、当該ホストとミラー ホストの間のすべてのトラフィックを繰り返すようにスイッチ ポート(ミラー ポート)を設定する必要があります。Flow Sensor モニタ ポート 1 をこのミラー ポートに接続する必要があります。これにより、Flow Sensor は当該ネットワークとの間のトラフィック、および他のネットワークへのトラフィックをモニタできるようになります。この場合、すべてのホストまたは一部のホストがスイッチに接続されるネットワーク構成が可能です。

スイッチでネットワークを設定する一般的な方法として、ネットワークをゾーンに区分して、ホスト物理接続ではなく論理接続である仮想ローカル エリア ネットワーク(VLAN)に分けることができます。ミラー ポートが VLAN またはスイッチのすべてのポートをミラーリングするように設定されている場合、Flow Sensor は、当該ネットワークとその他のネットワークの内部およびネットワーク間のすべてのトラフィックをモニタできます。

いずれの場合でも、スイッチの製造元のドキュメントを参照して、スイッチ ミラー ポートの設定方法と、ミラー ポートに繰り返されるトラフィックを確認しておくことが推奨されます。

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

設置

概要

この章では、使用環境にStealthwatch ハードウェアを設置する手順について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- **アプライアンスのマウント**
- **デフォルト ユーザ パスワードの変更**
- **ネットワークへのアプライアンスの接続**

アプライアンスのマウント

Stealthwatch 製品は標準の19 インチ ラックまたはキャビネットに直接マウントできます。他の適切なキャビネットや平らな場所に設置することもできます。

ラックまたはキャビネット内にアプライアンスをマウントする場合は、レール マウント キットに含まれている手順に従います。

アプライアンスの配置場所を決める場合は、前面および背面パネルまでのスペースが以下の要件を満たしていることを確認します。

- 前面パネルのインジケータが見やすいこと。
- 背面パネルのポートに無理なくケーブルを接続できること。
- 背面パネルの電源コネクタが調整済み AC 電源の近くにあること。
- アプライアンスの周囲および通気口を通過するエアーフローが妨げられないこと。

アプライアンスに付属するハードウェア

Stealthwatch システム製品には次のハードウェアが付属しています。

- AC 電源コード
- アクセス キー(前面プレート)
- ラック マウント用のレール キットまたは小型アプライアンス用のマウント用取付金具
- Flow Collector 5000 シリーズ アプライアンスの場合は、10 GB SFP ケーブル

追加で必要なハードウェア

以下の追加で必要なハードウェアを用意する必要があります。

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

- 標準の 19 インチ ラック用取り付けネジ。
- 設置している各 Stealthwatch システム製品の無停電電源装置(UPS) 。
- 設置している製品と注文した構成に基づいた、以下の表に示されているイーサネット ケーブル。合計列をチェックリストとして使用すると、必要な数量の計画を立てられます。

製品	管理ポート	モニタリング ポート	合計銅線数	合計光ファイバ
SMC 1000/1010	銅線 X 1	未使用		
SMC 2000/2010	銅線 X 1	未使用		
SMC 2200	銅線 X 2	未使用		
FC 1000/1010	銅線 X 1	銅線 X 1		
FC 2000/2010	銅線 X 1	銅線 X 最大 3		
FC 4000/4010	銅線 X 1	銅線 X 最大 3		
FC 4200	銅線 X 2	銅線 X 1		
FC 5000 エンジン	銅線 X 2	---		
FC 5000 データベース	銅線 X 2	---		
FC 5020 エンジン	銅線 X 1	銅線 X 1		
FC 5020 データベース	銅線 X 1	銅線 X 1		
FC 5200 エンジン	銅線 X 1	銅線 X 1		
FC 5200 データ	銅線 X 1	銅線 X 1		

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

製品	管理ポート	モニタリング ポート	合計銅線数	合計光ファイバ
ベース				
FS 250	銅線 X 1	銅線 X 最大 2		
FS 1000/1010	銅線 X 1	銅線 X 最大 3		
FS 1200	銅線 X 2	銅線 X 最大 5		
FS 2000/2010	銅線 X 1	銅線 X 最大 5 **OR** 銅線 X 最大 3 および Base-SX LC X 最大 2		
FS 2200	銅線 X 2	銅線 X 最大 5 光ファイバ X 最大 2		
FS 3000/3010	銅線 X 1	光ファイバ X 最大 2		
FS 3200	銅線 X 2	SFP-10G-SR-S 10GBASE-SR SFP モジュール X 最大 2、エンタープライズクラス **または** SFP-10G-LR-S 10GBASE-LR SFP モジュール、エンタープライズクラス		
FS 4200	銅線 X 2	10 GB SFP+ X 最大 2		
UDP 2000/2010	銅線 X 1	銅線 X 最大 3		

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

製品	管理ポート	モニタリング ポート	合計銅線数	合計光ファイバ
UDP 2200	銅線 X 2	銅線 X 最大 5		
IC 1020	銅線 X 1			
必要なイーサネット ケーブルの合計数				

- (オプション) ローカルに設定するには、次のいずれかの方法を使用します。
  - ラップトップとビデオ ケーブルおよび USB ケーブル(キーボード用)
  - ビデオ モニタとビデオ ケーブルおよびキーボードと USB ケーブル

デフォルト ユーザ パスワードの変更

ここでは、アプライアンスに接続して、デフォルトのユーザ パスワードを変更する方法を説明します。

アプライアンスへの接続

アプライアンスに接続するには、次のいずれかの方法を使用します。

- キーボードとモニタを使用する
- ラップトップ(およびターミナル エミュレータ) を使用する

新しい製品では、SSH は無効になっています。有効にするには、アプライアンスの管理 Web インターフェイスにログインする必要があります。

キーボードとモニタを使用した接続

IP アドレスをローカルに設定するには、次の手順を実行します。

1. 電源ケーブルをアプライアンスに差し込みます。
2. 電源ボタンを押してアプライアンスの電源をオンにし、起動が完全に終了するまで待機します。起動プロセスは中断しないでください。

- 一部のモデルでは、システムの電源が入っていないときに電源ファンがオンになります。前面パネルの LED がオンになっているか確認します。

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

- アプライアンスが無停電電源装置(UPS)に接続されていることを確認します。電源には電力が必要です。電力がない場合エラーが表示されます。

3. 次の手順でキーボードを接続します。

- 標準キーボードの場合は、標準のキーボード コネクタに接続します。
- USB キーボードの場合は、USB コネクタに接続します。

4. ビデオ コネクタにビデオ ケーブルを接続します。ログイン プロンプトが表示されます。
5. **デフォルト IP アドレスの変更**に進みます。

ラップトップを使用した接続

ラップトップを使用してアプライアンスに接続することもできますが、ターミナル エミュレータが必要です。

ラップトップを使用してアプライアンスに接続するには、次の手順を実行します。

1. 次のいずれかの方法を使用してラップトップをアプライアンスに接続します。

- ラップトップのシリアル ポート コネクタ(DB9)からアプライアンスのコンソール ポートにRS232 ケーブルを接続します。
- ラップトップのイーサネット ポートからアプライアンスの管理ポートにクロス ケーブルを接続します。

2. ラップトップを起動します。
3. アプライアンスに電源を接続します。電源ボタンを押してアプライアンスをオンにします。

- 一部のモデルでは、システムの電源が入っていないときに電源ファンがオンになります。前面パネルのLED がオンになっているか確認します。
- アプライアンスを必ず無停電電源装置(UPS)接続してください。電源には電力が必要です。電力がない場合エラーが表示されます。

4. ラップトップで、アプライアンスへの接続を確立します。

使用可能な任意のターミナル エミュレータを使用して、アプライアンスと通信することができます。

5. 次の設定を適用します。

- BPS:9600
- データ ビット:8
- ストップ ビット:1
- パリティ:なし
- フロー制御:なし

ログイン画面とログイン プロンプトが表示されます。

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

6. 次の「**デフォルト IP アドレスの変更**」に進みます。

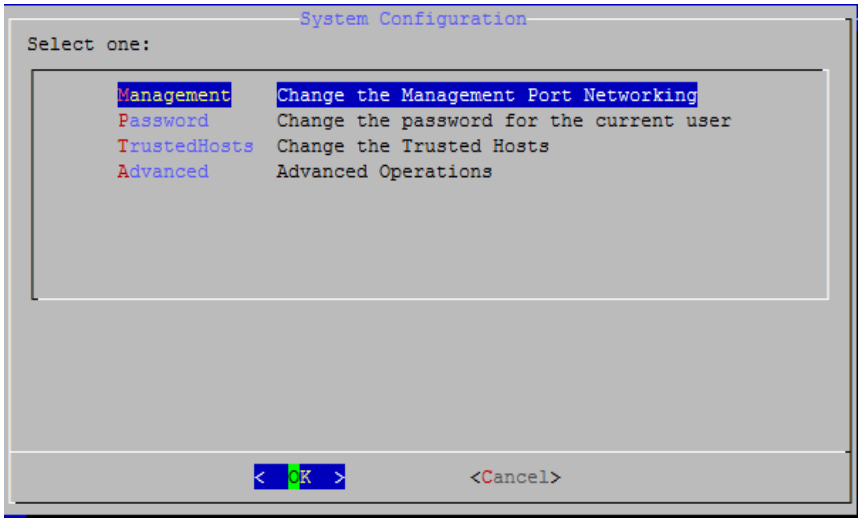
デフォルト IP アドレスの変更

アプライアンスに接続したら、IP アドレスを設定する必要があります。アプライアンスにデフォルト IP アドレスがすでに設定されている場合は、ネットワークに合わせてそれらの IP アドレスを設定する必要があります。

1. 次のいずれかを実行して、システム設定プログラムにログインします。

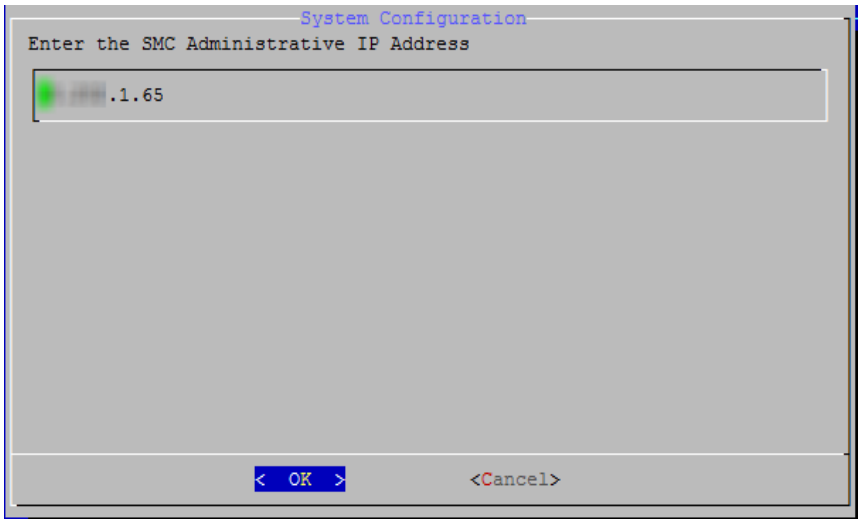
- **sysadmin** と入力して、Enter を押します。
- パスワード プロンプトが表示されたら、**lan1cope** と入力して Enter を押します。
- 次のプロンプトで、**SystemConfig** と入力して、Enter を押します。

[システム設定(System Configuration)] メニューが開きます。



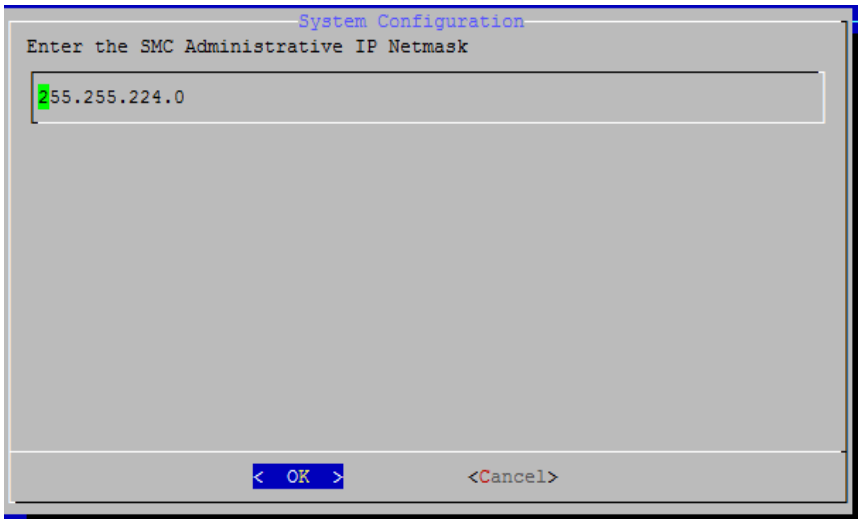
2. [Management] を選択して、Enter を押します。[IP Address] ページが開きます。

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved



3. 次の手順を実行します。
   - 使用環境に基づき新しいIP アドレスを入力します。
   - [OK] を選択し、Enter を押して続行します。

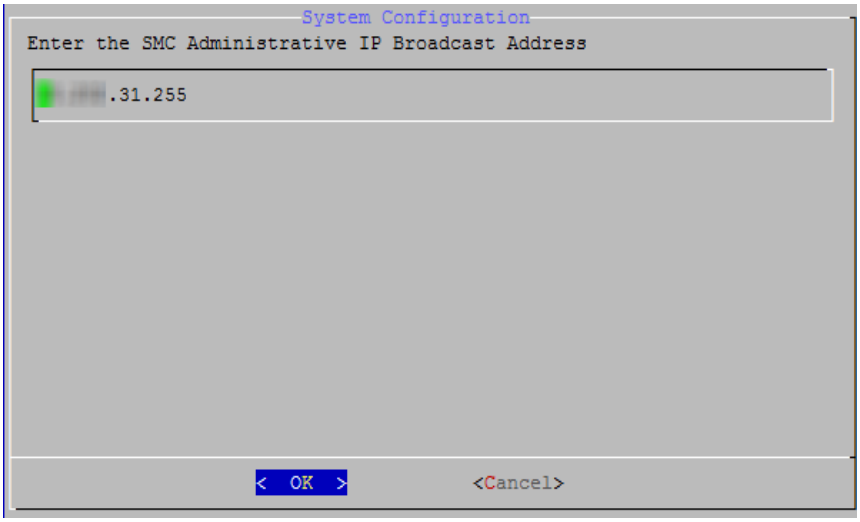
デフォルト値を含む[IP netmask] ページが開きます。



4. 次の手順を実行します。
   - デフォルト値を受け入れるか、環境に基づいて新しいIP ネットマスク アドレスを入力します。
   - [OK] を選択し、Enter を押して続行します。

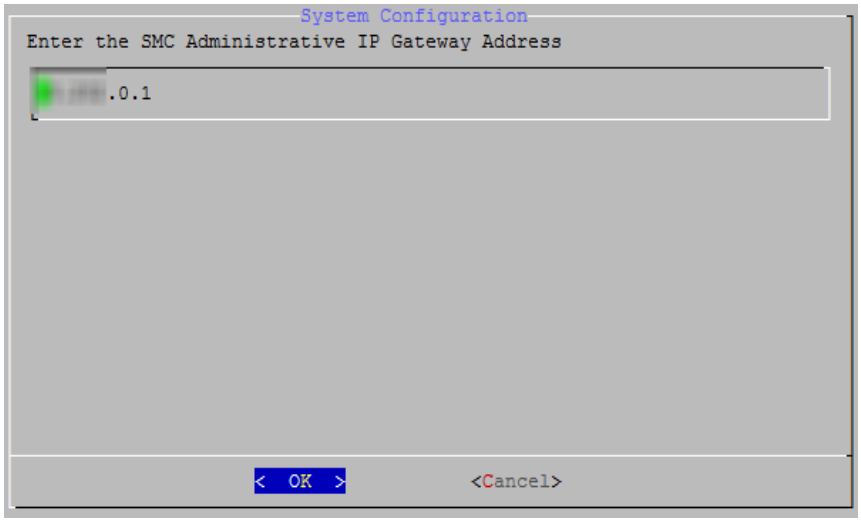
© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

[Broadcast Address] ページが開きます。



5. 次の手順を実行します。
   - デフォルト値を受け入れるか、環境に基づいて新しい値を入力します。
   - [OK] を選択し、**Enter** を押して続行します。

デフォルトのゲートウェイ サーバ IP アドレスを示す [Gateway Address] ページが開きます。

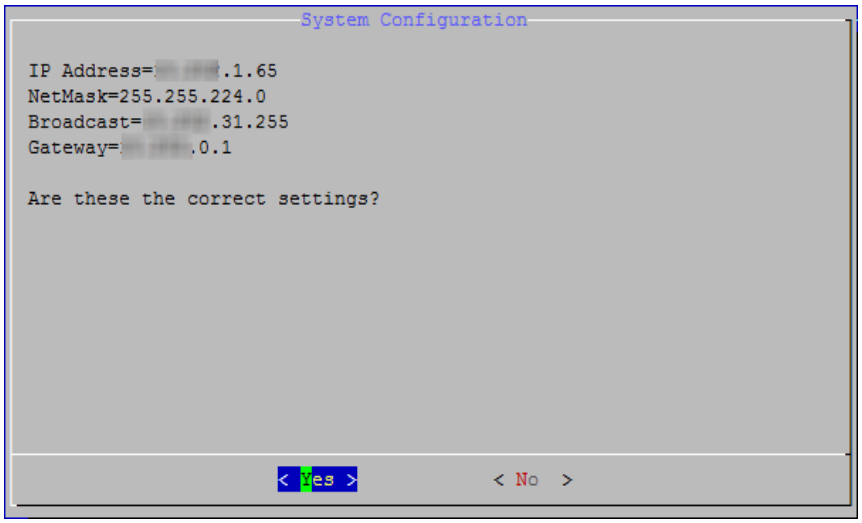


6. 次の手順を実行します。

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

- デフォルト値を受け入れるか、環境に基づいて新しい値を入力します。
- [OK] を選択し、**Enter** を押して続行します。

確認ページが開きます。



7. 画面の情報を確認します。設定は正しいですか。
   - 正しい場合は、[Yes] を選択し、Enter を押して続行します。システムが再起動し、変更が実装されます。完了すると、[Login] ページが開きます。
   - 設定が正しくない場合は、[No] を選択して修正します。[IP Address] ページが開き、変更内容を入力できます。変更が完了し、設定を受け入れると、[Restart] ページが開きます。Enter を押して変更を実装します。
8. 次の**ネットワークへのアプライアンスの接続**に進みます。

sysadmin ユーザパスワードの変更

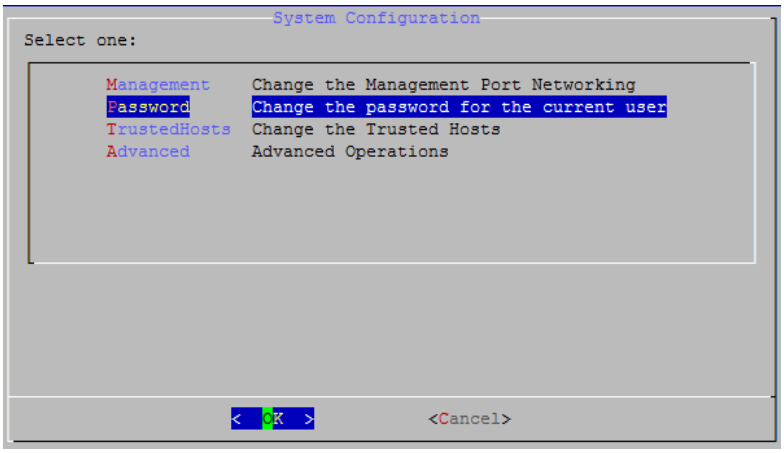
ネットワークの安全性を確保するには、アプライアンスのデフォルトの sysadmin パスワードを変更する必要があります。

この手順を開始するには、**sysadmin** でログインしてください。

sysadmin パスワードを変更するには、次の手順を実行します。

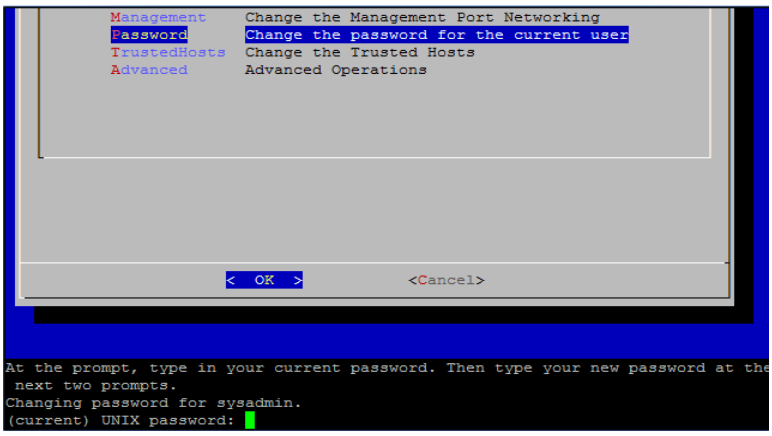
1. [System Configuration] メニューで、[Password] を選択して Enter を押します。

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved



信頼できるホストのリストをデフォルトから変更する場合、各 Stealthwatch アプライアンスが展開内の他のすべての Stealthwatch アプライアンスの信頼できるホストのリストに含まれていることを確認する必要があります。そうしなければ、アプライアンス間で通信できません。

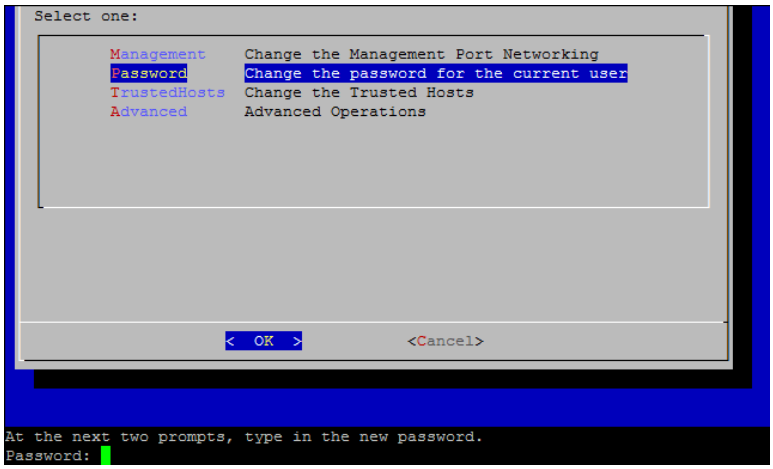
現在のパスワードのプロンプトがメニューの下に表示されます。



2. 現在のパスワードを入力して、Enter を押します。

新しいパスワードのプロンプトが表示されます。

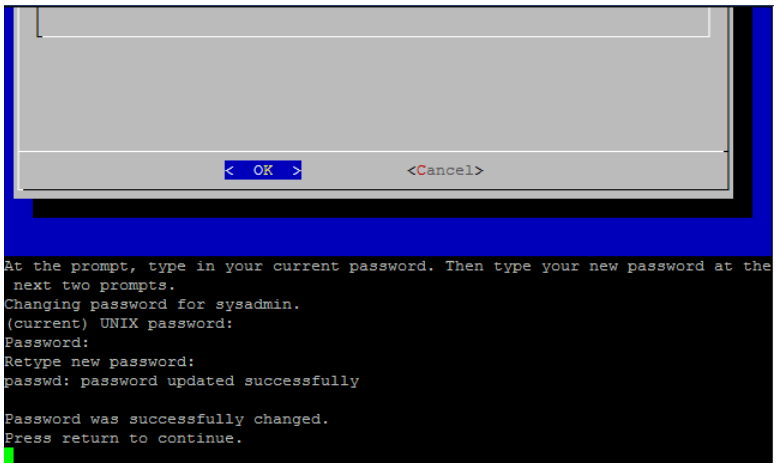
© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved



3. 新しいパスワードを入力して、Enter を押します。

パスワードは、スペースを含めずに5 ～ 30 文字の英数字にする必要があります。$.~!@#%_=?:,{}() の特殊文字も使用できます。

4. パスワードを再度入力して、Enter を押します。



5. パスワードが承認されたら、Enter をもう一度押して [System Configuration] メニューに戻ります。
6. 次の「**ルート ユーザ パスワードの変更**」に進みます。

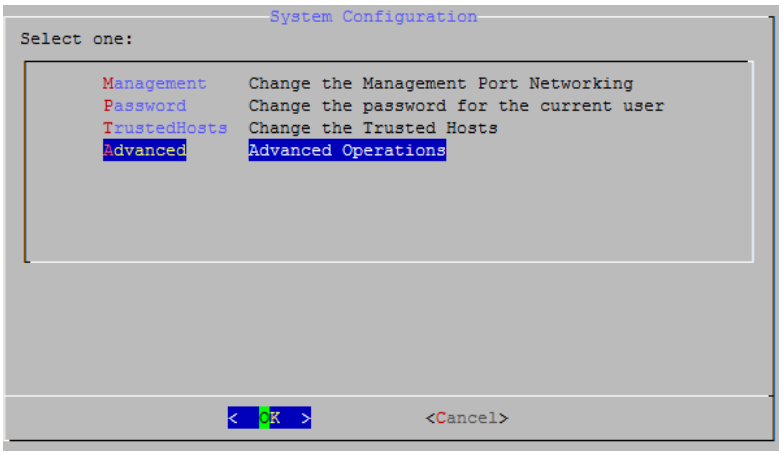
ルート ユーザ パスワードの変更

デフォルトの sysadmin ユーザ パスワードを変更したら、デフォルトのルート ユーザ パスワードを変更してネットワークのセキュリティをさらに保護する必要があります。

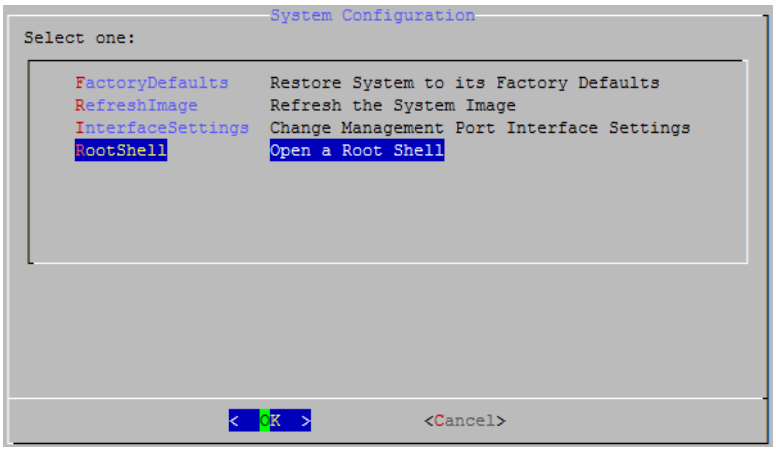
ルート ユーザ パスワードを変更するには、次の手順を実行します。

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

1. 次の手順で、ルート ログインのパスワードを変更できます。まず、ルート シェルに移動する必要があります。

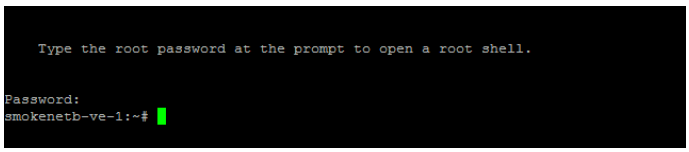


2. [System Configuration] メニューで、[Advanced] を選択し、Enter を押します。[Advanced] メニューが表示されます。



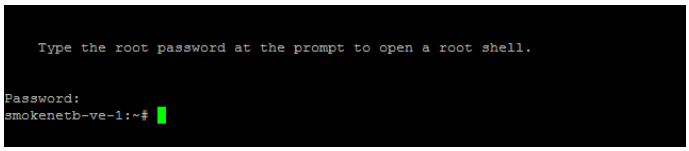
3. [RootShell] を選択して Enter を押します。

ルート パスワードのプロンプトが表示されます。



4. 現在のルート パスワードを入力して、Enter を押します。ルート シェルのプロンプトが表示されます。

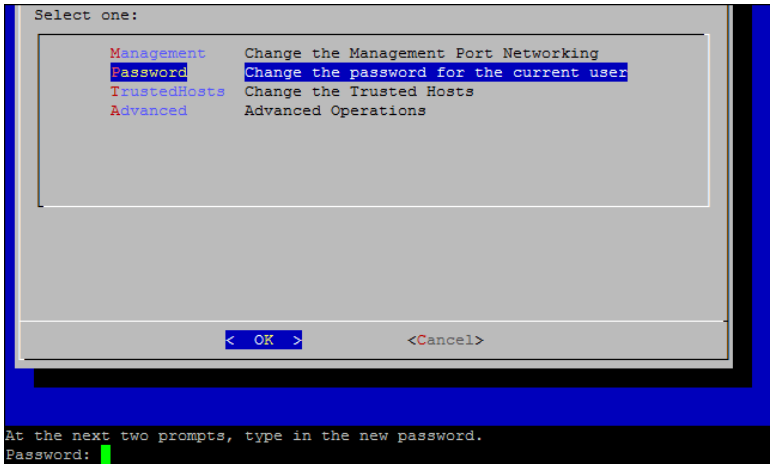
© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved



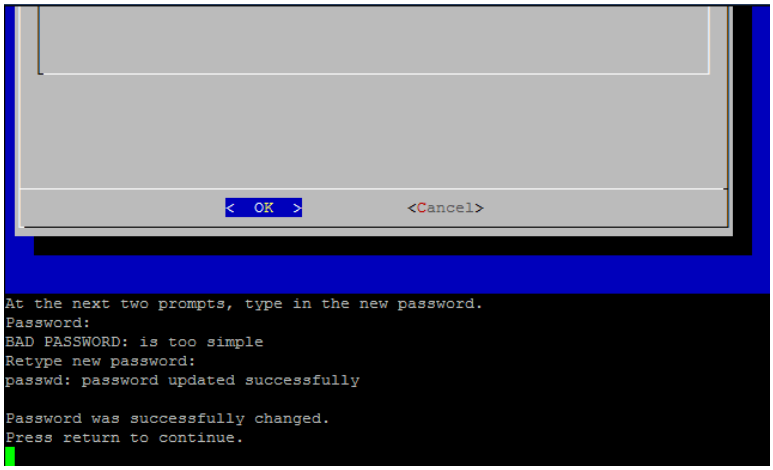
5. **SystemConfig** と入力して、Enter を押します。

これによって、[システム設定(System Configuration)] メニューに戻り、ルート パスワードを変更できます。

6. [Password] を選択して、Enter を押します。パスワードのプロンプトがメニューの下に表示されます。

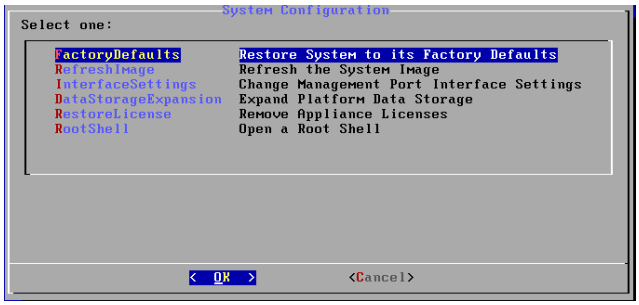


7. 新しいルート パスワードを入力して、Enter を押します。2 番目のプロンプトが表示されます。

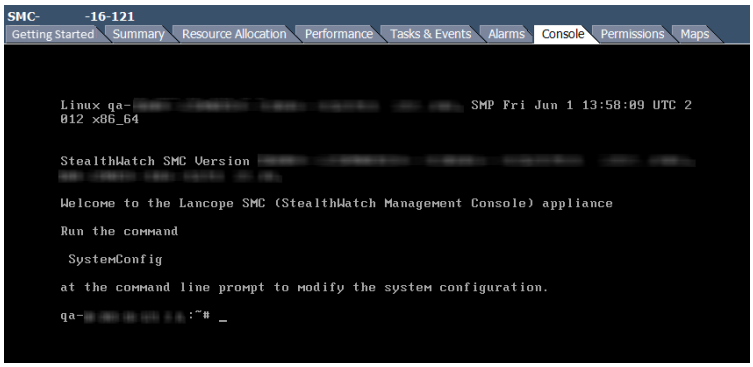


© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

8. 新しいルート パスワードを再入力して、Enter を押します。
9. パスワードの変更が成功したら、Enter を押します。これで、デフォルトの sysadmin パスワードとルート パスワードの両方が変更されました。これで、[System Configuration Console] メニューに戻ります。



10. [Cancel] を選択し、Enter を押します。[System Configuration Console] が閉じ、ルート シェル プロンプトが表示されます。



11. **exit** と入力して、Enter を押します。ログイン プロンプトが表示されます。
12. Ctrl+Alt を押してコンソール環境を終了します。
13. 次の**ネットワークへのアプライアンスの接続**に進みます。

ネットワークへのアプライアンスの接続

各アプライアンスをネットワークに接続する手順は同じです。接続の唯一の違いは使用するアプライアンスのタイプです。

アプライアンスをネットワークに接続するには、次の手順を実行します。

1. 以下に示されているサーバのタイプからアプライアンスを選択します。
2. **ネットワークへの接続**で説明されている手順に従い、アプライアンスをネットワークに接続します。

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

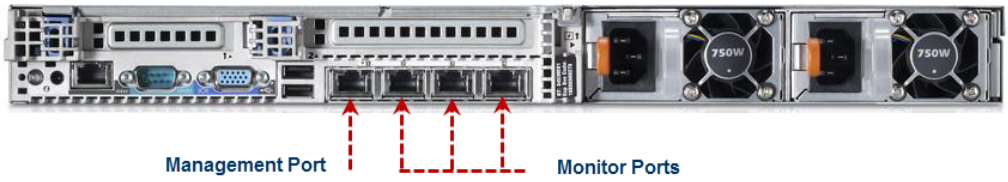
サーバのタイプ

ここでは、ネットワークで使用される Stealthwatch アプライアンスのタイプを示します。

シスコ サーバ(2200 や 4200 などの「200」シリーズ)では同じサーバ UCSC-C220-M4S を使用しますが、Flow Collector 5200 は例外で、UCSC-C240-M4S2(2RU)を使用します。アプライアンスの違いは、NIC カード、プロセッサ、メモリ、ストレージおよび RAID にあります各アプライアンスの詳細については、ドキュメント ライブラリまたは Lancope Community の Web サイト(community.lancope.com/)にある仕様シートを参照してください。表示されている図は、NIC ポートが使用されていることを示しています。

SMC 1000 および 2000 と Flow Collector 1000 および 2000

このアプライアンスは SMC 500/1000、1000 および 2000、Flow Collector 1000 および 2000、Flow Sensor 2000 および 3000 に使用されます。



高さ:4.3 cm(1.68 インチ)
幅:48.24 cm(18.99 インチ)(ラック ラッチあり)

43.4 cm(17.08 インチ)(ラック ラッチなし)
奥行:70.67 cm(27.8 インチ)(電源とベゼルあり)
72.53 cm(28.6 インチ)(電源とベゼルなし)

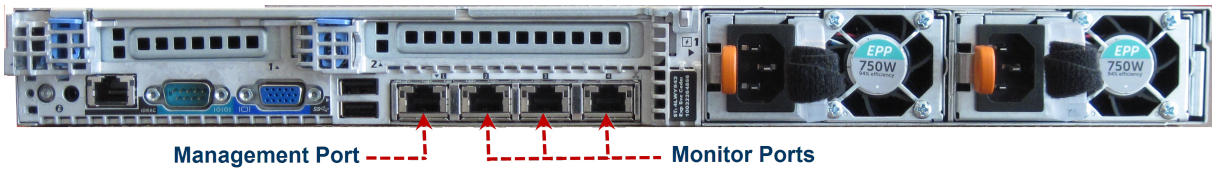
発熱量:最大 2,891 BTU/時
電源:冗長、ホットスワップ可能:750 W、50/60 Hz、オート レンジング(100 ～ 240 V)

SMC 1010、Flow Collector 1010 および 4010、Flow Sensor 2010、3010、4010、および UDP Director 2010

このアプライアンスは、次のモデルで使用されます。

- SMC 1010
- Flow Collector 1010、Flow Collector 4010
- Flow Sensor 2010、Flow Sensor 3010、Flow Sensor 4010
- UDP Director 2010

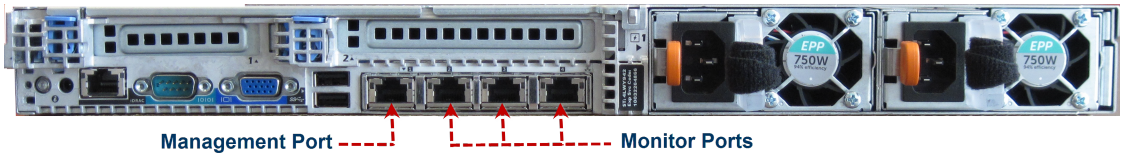
© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved



高さ: 4.3 cm(1.68 インチ) **幅** : 43.4 cm(17.09 インチ) **奥行** : 74.3 cm(29.25 インチ)	**発熱量** : 2,891 BTU/時 **電源** : 冗長 : 750 W

SMC 2010 および Flow Collector 2010

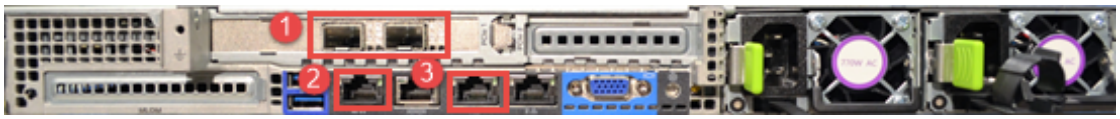
このアプライアンスは、SMC 2010 と Flow Collector 2010 に使用されます。



高さ: 4.3 cm(1.68 インチ) **幅** : 43.4 cm(17.09 インチ) **奥行** : 74.3 cm(29.25 インチ)	**発熱量** : 2,891 BTU/時 **電源** : 冗長 : 750 W

SMC 2200

このサーバは、SMC 2200 に使用されます。



1. 予約済みポート : 2、光ファイバ: 10 GB SFP+
2. CIMC 管理ポート : 1、100/1000 銅線
3. Stealthwatch 管理ポート : 1、100/1000 銅線

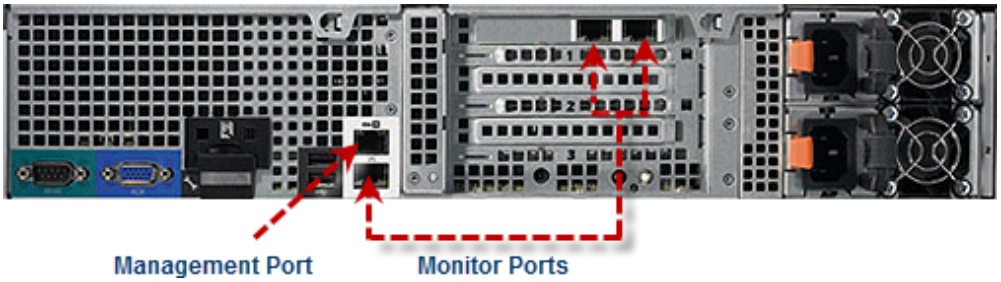
高さ: 4.3 cm(1.7 インチ) **幅** : 42.9 cm(16.9 インチ) **奥行** : 75.8 cm(29.8 イン	**発熱量** : 最大 1741.13 BTU/時 (概算) **電源** : 冗長ホットスワップ可能 750

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

チ)	W X 2、オート レンジング(100 ～ 240 V)

Flow Collector 4000

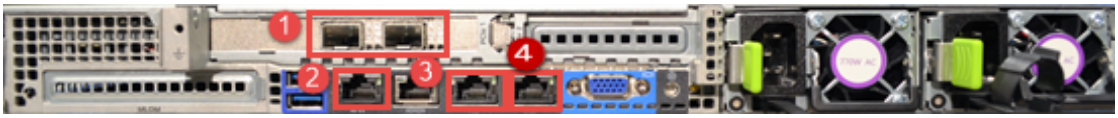
このアプライアンスは、Flow Collector 4000 に使用されます。



高さ:8.67 cm(3.42 インチ) **幅**:44.52 cm(17.53 インチ) **奥行**:66.46 cm(26.17 インチ)	**発熱量**:2,559 BTU/時 **電源**:冗長ホットスワップ可能 750 W X 2、オート レンジング(100 ～ 250 V)

Flow Collector 4200

このアプライアンスは、Flow Collector 4200 に使用されます。



1. 予約済みポート:2、10 GB SFP+
2. CIMC 管理ポート
3. Stealthwatch 管理ポート:1、10/100/1000 銅線
4. モニタリング ポート:1、100/1000 銅線

高さ:4.3 cm(1.7 インチ) **幅**:42.9 cm(16.9 インチ) **奥行**:75.8 cm(29.8 インチ)	**発熱量**:最大 1741.13 BTU/時(概算) **電源**:冗長ホットスワップ可能 750 W X 2、オート レンジング(100 ～

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

	240 V)

Flow Collector 5000 エンジン

NetFlow プラットフォーム向け Flow Collector 5000 は、2 台の接続されたサーバで構成されているため、設置が他のアプライアンスとは異なります。1 本の 10G SFP ケーブルで直接接続されるため、単一のアプライアンスとして機能します。

付属の 10 GB SFP ケーブルを使用してユニットを *eth2 というラベルのポートに接続します*。サーバは、10 GB SFP ケーブルが届くように、ラック内で垂直に重ねて配置します。各サーバは、管理ポートとして使用される 1 GB 銅線イーサネット ポートを使用します。各サーバには、専用の iDRAC Enterprise ポートもあります。また、未使用の 2 つのオンボード ポートがあります。これらのポートは使用されないように、ポート カバーを付けておく必要があります。

次の図は、サーバ間の接続を示しています。上は Flow Collector 5000 エンジンで、下は Flow Collector 5000 データベースです。

高さ: 4.26 cm(1.68 インチ) **幅**: 48.24 cm(18.99 インチ)(ラック ラッチあり) 43.4 cm(17.08 インチ)(ラック ラッチなし) **奥行**: 70.67 cm(27.8 インチ)(電源とベゼルあり) 72.53 cm(28.6 インチ)(電源とベゼルなし)
発熱量: 最大 2,891 BTU/時 **電源**: 1100 W AC、50/60 Hz、オート レンジング(100 ～ 240 V) 図には 750 W の電力が示されていますが、実稼働の Flow Collector 5000 では、エンジンとデータベースの両方で冗長 1100 W 電力が使用されます)。

Flow Collector 5000 データベース

このアプライアンスは、Flow Collector 5000 データベースに使用されます。このデータベースは Flow Collector 5000 エンジンとペアリングされます。

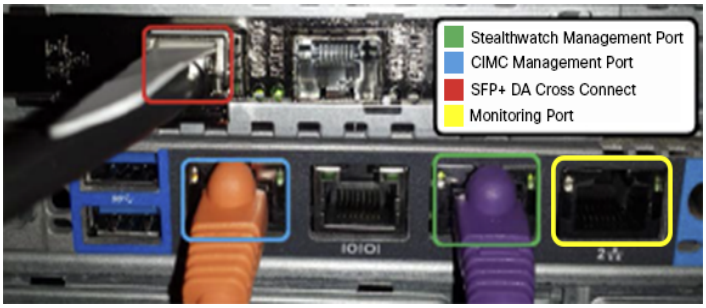
© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

高さ: 8.67 cm(3.42 インチ) **幅** : 48.24 cm(18.99 インチ) **奥行** : 81.33 cm(32.02 インチ)	**発熱量** : 2,891 BTU/時 **電源** : 冗長ホットスワップ可能 750 W X 2、オート レンジング(100 ～ 240 V)

Flow Collector 5020 および 5200 データベース

Flow Collector 5020 for NetFlow プラットフォームと Flow Collector 5200 for NetFlow プラットフォームは、2 台の接続されたサーバで構成されているため、設置が他のアプライアンスとは異なります。サーバは 1 本の 10G SFP+ DA クロス接続ケーブルで直接接続されるため、単一のアプライアンスとして機能します。これらの Flow Collector はどちらも同じシスコ サーバとアプライアンスの設定を使用します。

Flow Collector 5020 および Flow Collector 5200 の各エンジンはその対応するデータベースとペアリングされます。これらのエンジンはどちらも同じシスコ サーバとアプライアンスの設定を使用します。次のアプライアンスは、2 つの各エンジンで使用されます。



1. 10 GB SFP+ DA クロス接続
2. CIMC 管理ポート
3. Stealthwatch 管理ポート : 1、10/100/1000 銅線
4. モニタリング ポート : 1、10/100/1000 銅線

高さ: 4.3 cm(1.7 インチ) **幅** : 42.9 cm(16.9 インチ) **奥行** : 75.8 cm(29.8 インチ)	**発熱量** : 最大 1816.63 BTU/時 (概算) **電源** : 冗長 770 W AC 入力電圧 : 公称範囲 100 ～ 127 VAC、200 ～ 240 VAC AC 入力周波数 : 公称範囲 50 ～ 60 Hz

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

	最大 AC 入力電流：100 VAC で 9.5 A、208 VAC で 4.5 A

Flow Collector 5020 および 5200 データベース

このアプライアンスは、Flow Collector 5020 データベースと Flow Collector 5200 データベースに使用されます。各データベースは対応するエンジンとペアリングされます。これらのデータベース ノードはどちらも同じシスコ サーバとアプライアンスの設定を使用します。次のアプライアンスは、2 つの各データベースで使用されます。

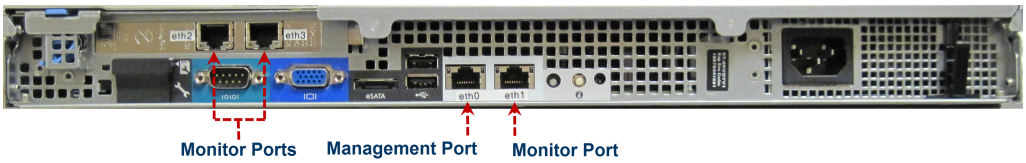
1. 10 GB SFP+ DA クロス接続
2. CIMC 管理ポート
3. Stealthwatch 管理ポート

高さ：8.67 cm（3.42 インチ） **幅**：44.8 cm（18.96 インチ）（ラック ラッチあり）、44.8 cm（17.65 インチ）（ラック ラッチなし） **奥行**：76.6 cm（30.18 インチ）（ハンドル付き）、73.8 cm（29.0 インチ）（ハンドルなし）	**発熱量**：最大 2492.78 BTU/時（概算） **電源**：冗長 770 W AC 入力電圧：公称範囲 100 ～ 127 VAC、200 ～ 240 VAC AC 入力周波数：公称範囲 50 ～ 60 Hz 最大 AC 入力電流：100 VAC で 11 A、208 VAC で 7 A

Flow Sensor 1000 と UDP Director（FlowReplicator とも呼ばれる）1000

このアプライアンスは、Flow Sensor 1000 および UDP Director 1000 に使用されます。

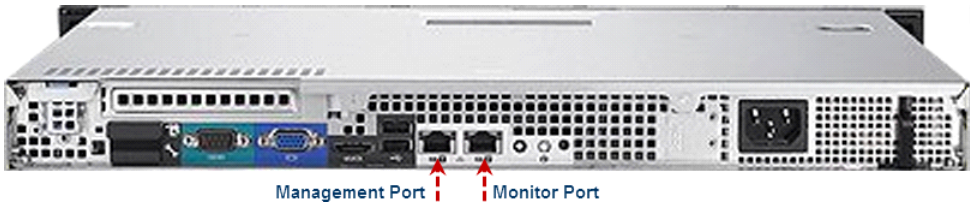
© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved



高さ: 4.2 cm(1.67 インチ) **幅** : 43.4 cm(17.09 インチ) **奥行** : 39.4 cm(15.5 インチ)	**発熱量** : 1039 BTU/時 **電源** : 単一 : 250 W

Flow Sensor 1010 および UDP Director 1010

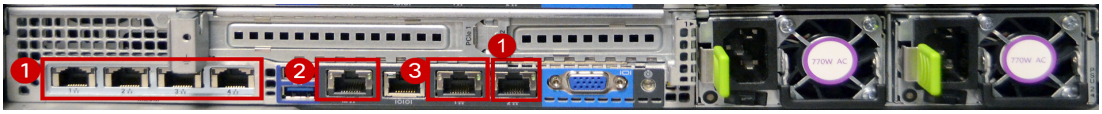
このアプライアンスは、Flow Sensor 1010 および UDP Director 1010 に使用されます。



高さ: 4.2 cm(1.67 インチ) **幅** : 43.4 cm(17.09 インチ) **奥行** : 39.4 cm(15.5 インチ)	**発熱量** : 1040 BTU/時 **電源** : 単一 : 250 W

Flow Sensor 1200

このサーバは、Flow Sensor 1200 に使用されます。



1. モニタリング ポート : 5、100/1000 銅線
2. CIMC 管理ポート : 1、100/1000 銅線

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

3. Stealthwatch 管理ポート：1、100/1000 銅線

高さ：4.3 cm（1.7 インチ） **幅**：42.9 cm（16.9 インチ） **奥行**：75.8 cm（29.8 インチ）	**発熱量**：最大 664.86 BTU/時（概算） **電源**：冗長ホットスワップ可能 750 W X 2、オートレンジング（100 ～ 240 V）

Flow Sensor 2200

このサーバは、Flow Sensor 2200 に使用されます。

1. モニタリングポート：5、100/1000 銅線
2. モニタリングポート：2、1 GB Base-SX LC

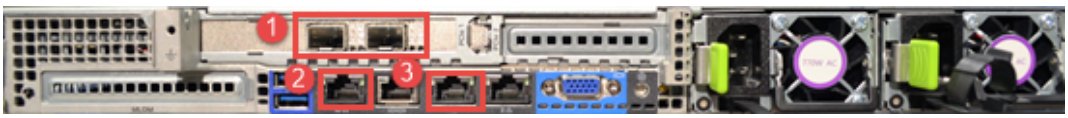
注：銅ケーブルまたは光ファイバケーブルのいずれかを使用できますが、両方を使用することはできません。

3. CIMC 管理ポート：1、100/1000 銅線
4. Stealthwatch 管理ポート：1、100/1000 銅線

高さ：4.3 cm（1.7 インチ） **幅**：42.9 cm（16.9 インチ） **奥行**：75.8 cm（29.8 インチ）	**発熱量**：最大 1164.77 BTU/時（概算） **電源**：冗長ホットスワップ可能 750 W X 2、オートレンジング（100 ～ 240 V）

Flow Sensor 3200

このサーバは、Flow Sensor 3200 に使用されます。



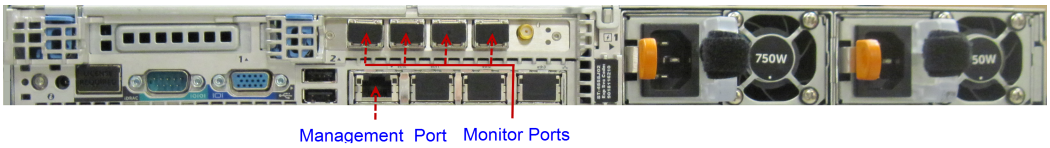
1. モニタリングポート：2、SFP-10G-SR-S 10GBASE-SR SFP モジュール、エンタープライズクラスまたは SFP-10G-LR-S 10GBASE-LR SFP モジュール、エンタープライズクラス
2. CIMC 管理ポート：1、100/1000 銅線
3. Stealthwatch 管理ポート：1、100/1000 銅線

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

高さ:4.3 cm(1.7 インチ) **幅**:42.9 cm(16.9 インチ) **奥行**:75.8 cm(29.8 インチ)	**発熱量**:最大 1149.71 BTU/時(概算) **電源**:冗長ホットスワップ可能 750 W X 2、オート レンジング(100 ~ 240 V)

Flow Sensor 4000

Flow Sensor 2000 および Flow Sensor 3000 と同じアプライアンスが Flow Sensor 4000 に使用されます。ただし、この Flow Sensor は、10 GB インターフェイスのみをサポートし、4 つのモニタ ポートを備えています。



高さ:4.26 cm(1.68 インチ) **幅**:48.24 cm(18.99 インチ)(ラック ラッチあり) 42.4 cm(16.69 インチ)(ラック ラッチなし) **奥行**:77.2 cm(30.39 インチ)(電源とベゼルあり) 73.73 cm(29.02 インチ)(電源とベゼルなし)
発熱量:最大 2446.5 BTU/時 **電源**:冗長、ホットスワップ可能、717 W

Flow Sensor 4200

このサーバは、Flow Sensor 4200 に使用されます。

1. モニタリング ポート:4、10 GB SFP+
2. CIMC 管理ポート:1、100/1000 銅線
3. Stealthwatch 管理ポート:1、100/1000 銅線

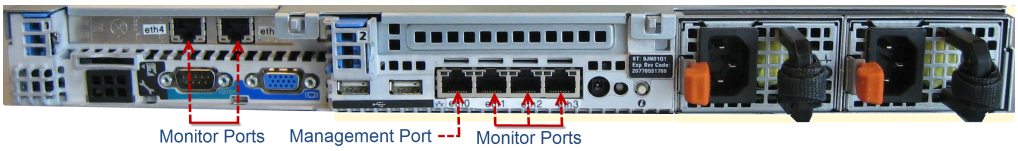
高さ:4.3 cm(1.7 インチ) **幅**:42.9 cm(16.9 インチ)	**発熱量**:最大 1282.64 BTU/時

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

奥行：75.8 cm（29.8 インチ）	（概算） **電源**：冗長ホットスワップ可能 750 W X 2、オート レンジング（100 ～ 240 V）

UDP Director 2000、Flow Sensor 2000 および 3000

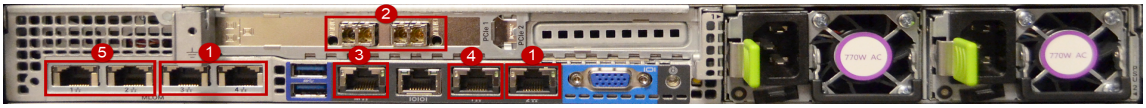
このアプライアンスは前述のアプライアンスと同じですが、オプションの 2 つの光ファイバ ポートがあります。Flow Sensor 2000、Flow Sensor 3000、および UDP Director（FlowReplicator とも呼ばれる）2000 に使用されます。



高さ：4.26 cm（1.68 インチ） **幅**：48.24 cm（18.99 インチ）（ラック ラッチあり） 43.4 cm（17.08 インチ）（ラック ラッチなし） **奥行**：70.67 cm（27.8 インチ）（電源とベゼルあり） 72.53 cm（28.6 インチ）（電源とベゼルなし）
発熱量：最大 2,891 BTU/時 **電源**：750 W AC、50/60 Hz、オート レンジング（100 ～ 240 V）

UDP Director 2200

このサーバは、UDP Director 2200 に使用されます。



1. モニタリング ポート：3、100/1000 銅線

2. 予約済みポート： 2、1 GB Base-SX LC

注：銅ケーブルまたは光ファイバ ケーブルのいずれかを使用できますが、両方を使用することはできません。

3. CIMC 管理ポート：1、100/1000 銅線

4. Stealthwatch 管理ポート：1、100/1000 銅線

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

5. HA クロス接続ポート : 2

高さ: 4.3 cm(1.7 インチ) **幅** : 42.9 cm(16.9 インチ) **奥行** : 75.8 cm(29.8 インチ)	**発熱量** : 最大 1164.77 BTU/時 (概算) **電源** : 冗長ホットスワップ可能 750 W X 2、オート レンジング(100 ～ 240 V)

ネットワークへの接続

アプライアンスをネットワークに接続するには、次の手順を実行します。

1. イーサネット ケーブルをアプライアンスの背面にある管理ポートに接続します。
2. Flow Sensor と UDP Director の少なくとも 1 つのモニタ ポートに接続します。アプライアンスに適合するケーブルについては、ハードウェアの表(**追加で必要なハードウェア**) を参照してください。

UDP Director HA の場合は、クロス ケーブルで 2 つの UDP Director を接続します。1 つ目の UDP Director の eth2 ポートを 2 つ目の UDP Director の eth2 ポートに接続します。同様に、2 本目のクロス ケーブルで各 UDP Director の eth3 ポートを接続します。ケーブルには、光ファイバまたは銅線を使用できます。

各ポートのイーサネット ラベル(eth2、eth3 など) に注意してください。これらのラベルは表示されるネットワーク インターフェイス(eth2、eth3 など) を表し、アプライアンス管理インターフェイスのホーム ページから設定できます。

3. イーサネット ケーブルのもう一方の端をネットワークのスイッチに接続します。
4. 電源コードを電源に接続します。一部のアプライアンスには、電源 1 と電源 2 の 2 つの電源接続があります。
5. 電源ボタンを押してアプライアンスをオンにします。

- 場合によっては、電源を適用するために前面パネルを取り外す必要があります。
- 一部のモデルでは、システムの電源が入っていないときに電源ファンがオンになります。前面パネルの LED がオンになっているか確認します。
- アプライアンスが無停電電源装置(UPS) に接続されていることを確認します。電源には電力が必要です。電力がない場合エラーが表示されます。

6. アプライアンスの設定については、*Stealthwatch システム バージョン 6.9.0 ハードウェア設置ガイド* [英語] を参照してください。

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved

© 2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved